

# 読書

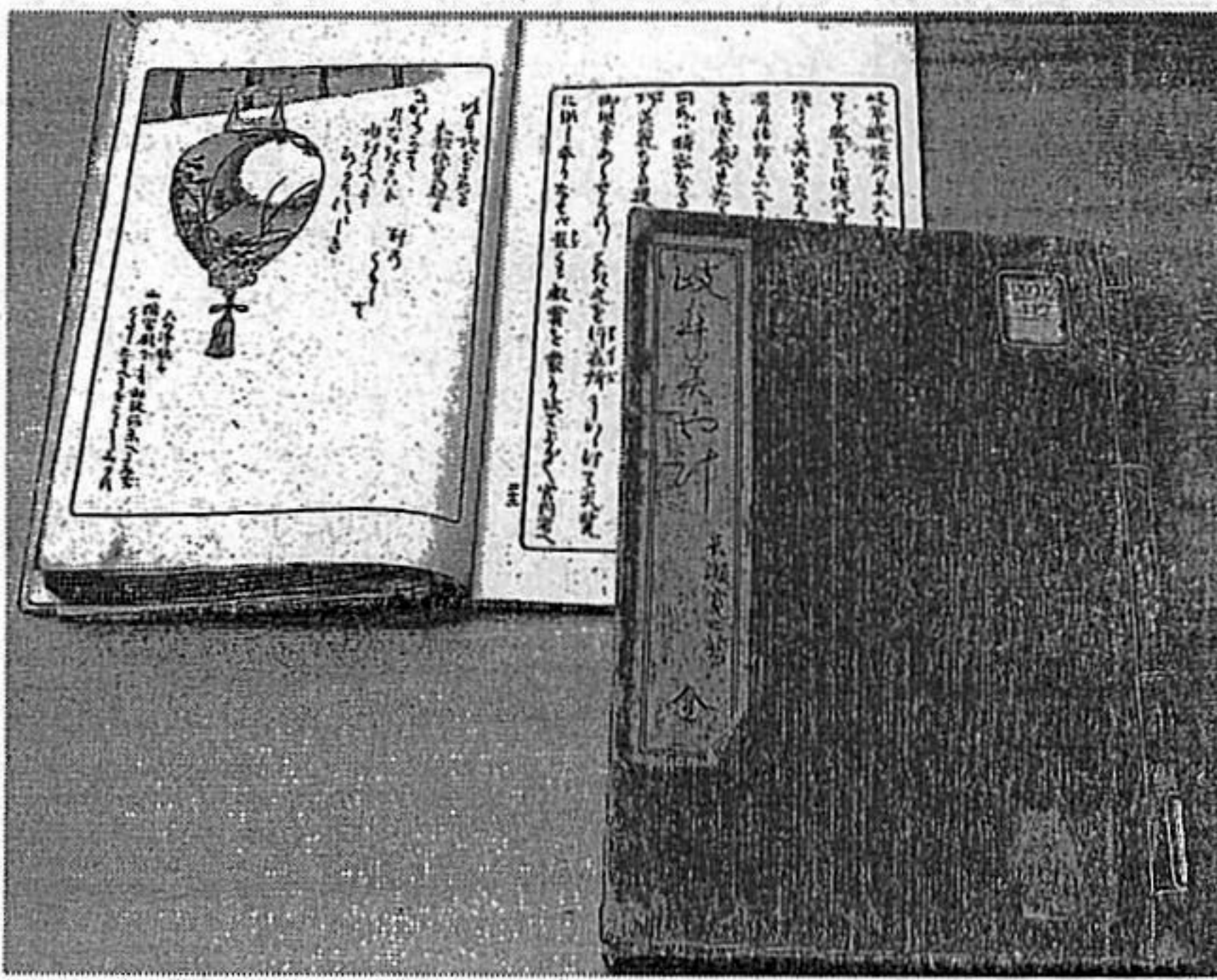
岐阜名物というとな何が  
「旅舎割烹店並列し玩具  
思い浮かぶだろうか。鵜  
理髪店寄席等ありて頗  
飼、岐阜提灯、守口大根  
(すくぶる)る繁盛せり」  
などさまざまだろう。そ  
なると町の発展をたたえ  
のうちのいくつかは、一  
る記述が見られる。  
八九〇(明治二十三年)  
ページをめくっていく  
に刊行された本書にも掲  
と多色刷りの美しい挿絵  
載されている。また、町  
が目を引く。全五十ページの

## 県図書館に行こう

こんな情報が待っている

の歴史や市街地の様子、  
物産、風物も紹介されて  
いて、明治初期の岐阜を  
知ることができる。  
本書刊行の前年に帝国  
憲法が公布され、東海道  
線も全線開通し、岐阜市  
は市制を施行した。町並  
みも近代化しつつあり、  
中に、伊奈波神社、鵜飼、  
岐阜提灯など九枚が掲載  
されている。また、巻末  
に折り込みの岐阜市街全  
図があり、当時の町筋な  
どを知ることができる。  
名産として取り上げら  
れているものの中には、  
今では見られなくなって

### 『岐阜美や計(みやげ)』 明治期の岐阜市案内



「岐阜美や計 (みやげ)」

しまったものもある。そ  
の二つが涼団(りょうだん)  
ん)。和紙に漆を塗って  
加工したもので、夏の敷  
物として使われた。  
当時、すでに活版印刷  
の本が出回り始めていた  
ものの岐阜では依然、木  
版印刷が主流で、本書も  
木版印刷の和とじ本。し

かし刊行翌年、濃尾大震  
災で出版元の博文堂書店  
が焼失。その後、一気に  
活字本の時代へと進んだ  
ため、本書は岐阜の木版  
印刷の最後の書。一九七  
六(昭和五十一)年に大  
衆書房が復刻している。

岐阜の町のことを書い  
た本は、延享年間(一七  
四四〜一七四七年)に松  
平秀雲の『岐阜志略』が  
あり、一八八五(明治十  
八)年に本書の著者でも  
ある長瀬寛二によって活  
字版が出た。長瀬は各務  
原市前渡出身で、犬山藩  
儒村瀬太乙の元で学ん  
だ。岐阜県教育会で雑誌  
編さんに携わるなど、出  
版活動を通じて郷土文化  
をけん引した。